国指定重要無形民俗文化財

吉田祭のお練り行事

ユネスコ無形文化遺産拡張提案申請

地域の宝

旧三万石の陣屋町に多彩な
おねり行列がゆっくりと進む

11月3日 祝
午前11時から

吉田町商店街

吉田秋祭保存団体協議会
吉田町おねり保存会
吉田秋祭振興会

吉田秋祭の歴史

吉田町は、旧吉田藩三万石の栄えた歴史があります。吉田秋祭は明暦三（一六五七）年、吉田藩創立後の寛文四（一六六四）年、総鎮守の八幡神社に初代藩主伊達宗純が神輿を寄進したことで始まります。

現在、この祭は毎年十一月一、二日に行われ、二日の神事、伊勢踊り奉納、宵宮宝多の徒練りに始まり、三日は早朝より卯之刻相撲と鹿踊り（鹿の子）の奉納、神輿の宮出しが行われ、旧陣屋町界隈の商店街には多彩な練物が揃い、祭りを取り仕切る大世話番によって江戸時代の祭礼絵巻さながらの華やかなおねり行列が巡行します。

この祭礼行列には、練車と呼ばれる楠木正成・太閤秀吉・武内宿禰・恵比寿・関羽雲長・八幡太郎義家（展示のみ）といった人形を載せた屋台が運行されるほか、御用練り・御船・七福神・御神餅懸鯛・宝多・四ツ太鼓・猿田彦など様々な練物が登場し、古絵図と変わらない旧陣屋町の町割りを御殿前の家中町から町人町に向けて練り曳き回します。

そして神輿の先駆けには南予特有の鹿の子と牛鬼が登場します。仙台伊達家の鹿踊りの流れが残る郷土芸能鹿踊りを随所で披露し、宇和島伊達家から伝播した牛鬼が家々の玄関口に頭を突っ込み桜橋元では縦横無尽に暴れます。おねり行列には、地区住民が老若男女総出で参加し、沿道の観客と相まって大いに賑わいます。

特色

吉田秋祭は、江戸時代から町人・農民・漁民による祭礼組織が現在まで維持され、藩士らが参加していた御用練りも途絶えることもなく、典型的な近世後期の大名祭りともいえる都市祭礼が継承されています。

また勇壮な「牛鬼」や躍動感あふれる「鹿踊り」といった愛媛県南部、南予地方独特の祭礼文化の要素が多彩に盛り込まれた祭礼です。

そして、江戸時代の祭礼絵巻と現在の姿を比べても、大きく変化しておらず、強い伝承性を有しています。

河口の湿地帯を埋め立てなどによって築かれた旧陣屋町は、江戸時代からその町割り、道路や溝などがほとんど変わらず、古い風情が残る町並みにおねり行列がゆっくりと巡行します。

吉田祭礼絵巻
※一部加工